

二〇二一年度 一般一月入学試験

国 語

〔注意事項〕

1. 試験開始の合図があるまで、問題冊子の中を見てはいけません。
2. 問題冊子は30ページ、解答用紙はマーク・シート1枚です。監督者の指示に従って確認しなさい。
3. 問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせなさい。
4. マークは、マーク・シートに記載してある「記入上の注意」をよく読んだうえで、正しくマークしなさい。
5. 受験番号及び氏名は、マーク・シートの所定欄に正確に記入し、また受験番号欄の番号を正しくマークしなさい。
6. 監督者の指示があつてから、マーク・シートの左上にある「科目欄」に受験する科目名を記入しなさい。
7. 試験終了後、問題冊子は持ち帰りなさい。

国

語

(60分 100点) (解答番号

1

5

46

)

第一問

次の文章は伊藤整の小説「若い詩人の肖像」の一節で、大学進学を貯めるために友人と石鹼と薔薇を売る店を始めた「私」が、実家に薔薇を取りに行こうと汽車に乗った場面である。これを読んで、後の問いに答えなさい。(40点)

ある日、私は家へ薔薇を取りに行くために汽車に乗った。もう八月に入っていたが、五六人の女学生がその汽車に乗っていた。彼女等は緑町にある私立の女学校(注)に通っている少女たちばかりであった。公立の学校は七月の末で休みになるが、私立の学校は八月の中頃まで授業をし、二学期を公立より十日遅れて九月の十日頃から始めるのであった。それは八月分の授業料を取るための手段であった。その少女たちは一緒に通う学生が全くいない時に、私一人がひよっ1こり乗り合わせたので、気軽に私に話しかけた。私の方も、この半月位のうちに、夜店の女客を相手に話をするに慣れていたので、軽く彼女等と話をする事ができた。「川崎さんと花屋をしてるんですね」とその中の二年生位の小さな元気のいい子が言った。その子は隣の蘭島駅から山を越えてゆく忍路村の浅田という家の子で、私はその子の姉の女学生を好いていた。私はその浅田絶子という名の少女を、汽車の中や停車場で、ひそかに時々見つけていた。彼女は頬ほの白い、丸顔の、ぼんやりとム2想しているような表情の娘であった。私が何度か見ていることがあっても、浅田絶子は私の目3に應じようとしなかった。その娘はこの時そこにいなかった。もう一人、少し前によその町から転校して来て余市町から通っている重田という四年生の少女がいた。眼めの大きい、橙だい色の頬をした大柄の少女であった。その少女は、駅で私を時々じつと見つめる癖があった。私は、自分の家の薔薇の花が足りなくなつて困っている、と浅田絶子の妹に言った。するとその少女は、うちの庭にうんと咲いているから取りにいらっしやい、と言った。すると目の大きい重田さんという少女が、ねえ行きましよう、私も一緒にについて行って見る、と言った。私は急に少女たちと親しくなったのがうれしかった。そしてそのまま自分の村の駅を乗り越して蘭島村へ下車した。

私は腕に花を入れる手籠てかごを下さげ、四人の少女たちと歩いて行いった。するとその村に住すんでいる二人の少女たちは、自分の家の近くで、次々と別わかれて行いった。それで、蘭島村から山を越こえた所にある美しい小さな入江を持つた忍路村の町並みの浅田家へ着いたときは、私と目の大きな重田さんの二人が、浅田家の末娘に案内されて来たような形になった。浅田家の姉娘が出て来て、私の後に重田さんという彼女の仲間が立たっているのを知ると、彼女はちよつとの間、私の方をじつと見た。その時、私は急に重田さんとこの家へ来たことの重大さに気がつき、この二人の少女の間にあつた秤はかりのようなものが一方に傾かたいてしまつたのを感じた。その秤の意味を私は強く感じて、どうしよう、どう説明しようもない、と思ひ焦こつた。しかし、その家の庭にそのまま私と重田さんは連れて行かれて、薔薇ばらだけでなく、色々な花を切きってもらい、籠かごに満みたした。私はいま、はじめて、自分の好このいていた少女の家へ来、その少女と話をし、その少女に花を切きってもらつていた。それなのに、いま自分の好きなその浅田絶子の目には自分が重田さんという少女と何か関係があるかのように写うつっているにちがひなかつた。私はこの重大な、取りかえしのつかないこの出来ごと(5)におしひしがれていた。今日のこの行動のために、もう自分は永久に、どんなに好きであつても、この絶子という頼たのみのふつくらと白い少女とかかわりを持つことはなくなるのさう、という気持ちで、私(6)は大きな躓つまずきを感じていた。しかも私は、今では何の意味もない薔薇の花を、三人の少女を相手に切り、籠かごに入れ、礼を言いつていなければならなかつた。日の照つている夏の花畑を歩きまわりながら、私は自分の運命の大きな変化のただ中であつて挨拶あいさつや微笑や礼(7)ギの約束を守つていること(8)の矛盾に打ちのめされるように感じた。私は自分の存在自体が嘘うそであり、ここで花を籠かごに集めてい(9)る自分が、まぶしい日光の中で間違つて出来た夏の幻(9)エイでもあるように感じた。

浅田家の娘たちは、私から金を受けとらなかつた。そして私は浅田家を(10)ジし、重田さんと二人、また小さな山を越こえて蘭島村の駅まで歩いた。私は、自分のそばにその無口な目の大きい少女がいるのを意識しながら、日が照りつけて草(11)いきれのする山のなぞ(注)えの赤土の道を歩いてい(注)ると、喉のどが乾かわいて、からからになるような気がした。重田さんが手を出して籠かごの片方を持つてくれた。重田さんは黄色い西洋菓子のような匂においがした。そしてシンと静まりかえつた崖下がけしたの道のあたりで、私は重田さんと二人皆に見棄すてられて、世の果てのような所を歩いて行くような気がした。あちこちに見える村の農家も、そのハネツルベ(注)の長ながい棹さおも、

みんな非現実の幻の風景のようであった。<sup>(12)</sup>

停車場へついた時、私と重田さんは待合室の中へ入らず、外の窓の下に立っていた。私は小声で重田さんに、「君の下の名前は何て言うの？」と聞いた。重田さんは「根見子って言います」と言つて、指でその少し風変わりな名前の文字を書いて見せた。重田さんは私の下の名前と私の家の番地とを聞いた。そして私に「お手紙あげてもいい？」と言つた。その時、私は大変胸がドキドキしたが、「うん、いいよ」と答えた。

余市町行き汽車の来る時間になつたので、重田さんは白く乾いた向こう側のプラットホームに渡つた。線路を越える時、彼女の黒い袴はかまの下に白い足袋が見え、段を上る時、足首とふくらはぎが少し見えた。彼女の皮膚は、健康で生き生きとし、何となくしめつてゐるように私は感じた。汽車が左手のトンネルの方から、下り気味の線路を、白い煙をなびかせながら走つて来た。そしていま重田根見子一人を乗せ、四五人の客を下ろして、また余市町の方へ走り去つた。それから二三日して、私が塩谷村の家へ帰ると、私の三畳間の机の上に、重田さんから来た白い封筒の手紙がおいてあつた。私の胸はどどろいた。私はその手紙の封を切り、パリパリする西洋紙の便箋びんせんをひろげて読んだ。たのしかつた、とか、なつかしい、とかいう文字が続いて、その終わりの方に、「私はあなたのホシのようなヒトミにあこがれています」と書いてあつた。<sup>(14)</sup>何て月並みな表現、旧式なラヴ・レターだろう、と私は思った。私は大熊信行（注）の詩を「クラルテ」で読んだ時のように、この手紙に点をつけようと思つた。つければ六十点だが、とちよつとの間考えた。私は文章の表現のコウ拙の差にのみ、この人生の真実と嘘との違いを見出せる、<sup>(15)</sup>という信念をいつの間にか身につけてしまつていたのだつた。私にとつて表現のみが真実であつた。しかし私はそう思つた直後に、この手紙は文章がいかに下手であつても、<sup>(16)</sup>下手なことはその意味と関係がない、ということに気がついた。つまり、それは詩や小説ではないから、下手であることと価値とは無関係のものであつた。この手紙は、あの橙色の膚はだをした、目の大きな、魅力ある少女が、その心を私に傾けたという事実を伝えたものであつた。この下手な手紙は、私が女に愛されていることを語つてゐるものだ、と私は思つた。あの小説や詩にある、シャトオブリアンの、エルテルの、<sup>(注)</sup>マリウスの、伊藤左千夫の「野菊の墓」のような、島崎藤村の詩のような、あの恋愛が、いま自分の身の上で起りかけているのだ。私はポーツとなり、<sup>(17)</sup>自分が光に包まれているよ

うに感じた。

(伊藤整「若い詩人の肖像」による)

(注1) 女学校——第二次世界大戦以前の学校制度で存在した高等女学校。四年または五年制で、十二歳以上の女子が在籍した。  
(注2) なぞえ——山の斜面。

(注3) ハネツルベ——井戸の水をくみ上げるための装置。

(注4) 大熊信行——山形県生まれの作家、評論家(二八九三～一九七七)。

(注5) シャトオブリアン、エルテル、マリウス——「シャトオブリアン」はフランスの作家(一七六八～一八四八)、「エルテル」はドイツの作家・詩人ゲーテ(一七四九～一八三二)の作品の登場人物。「マリウス」はフランスの作家・詩人ユーゴー(一八〇二～一八八五)の作品の登場人物。

問1 傍線番号(1)・(5)・(11)・(13)・(14)の本文における意味として、最も適切なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ

つ選びマークしなさい。 1 ～ 5

- (1) ひよっこり
- 1
- ① さつそうと
  - ② 間違つて
  - ③ 気安い感じで
  - ④ 思いがけず
  - ⑤ 若者らしく

- (5) 押しひしがれて
- 2
- ① 気持ちをくじかれて
  - ② 圧迫を感じ始めて
  - ③ 威圧感をおぼえて
  - ④ 後押しをされて
  - ⑤ 運命的なものを感じて

- (11) 草いきれのする
- 3
- ① 草の色が映えている
  - ② 草が枯れるほど乾燥した
  - ③ 息が上がりそうになる
  - ④ 悪臭に近いにおいのする
  - ⑤ 草から熱気がたちこめた

(13)

なびかせながら

4

① 風に吹き流させながら

② 勢いよく噴き出しながら

③ 青い空を曇らせるようにしながら

④ 途切れ途切れに出しながら

⑤ 左右に切り裂くようにしながら

(14)

月並みな

5

①

古めかしい

②

輝くような

③

ありきたりな

④

情緒たっぷりの

⑤

簡易かつ明瞭な

問2 傍線番号(2)・(7)・(9)・(10)・(15)と同じ漢字を使う語を、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつマークしなさい。

6  
10

(2) ム|想

6

- ① ム|反の計画を立てる
- ② 新人が無我ム|中で働く
- ③ ム|笛を鳴らし進む船
- ④ 本番を前にム|者ぶるいがする
- ⑤ 職ム|を全力で全うする

(7) 礼ギ|

7

- ① ギ|名を使って身を隠す
- ② 便ギ|上の処置をとる
- ③ 彼の行為にギ|念を抱く
- ④ 入学祝いに地球ギ|を贈る
- ⑤ 児ギ|に等しい振る舞いだ

(9) 幻エイ|

8

- ① 西部劇を上エイ|する
- ② エイ|利を目的とする
- ③ 祖父の遺エイ|を飾る
- ④ エイ|華をきわめる
- ⑤ エイ|遠の命を求める

(10) ジ|し

9

- ① 給ジ|のアルバイトをする
- ② 類ジ|商品を購入してしまう
- ③ 卒業式で式ジ|を読む
- ④ 不況を荒療ジ|で立て直す
- ⑤ ジ|味にあふれた言葉

(15) コウ拙

10

- ① 彼は信コウ|心の厚い人だ
- ② 技コウ|の限りを尽くした名作
- ③ 大学で生物学を専コウ|する
- ④ コウ|常に水が不足している
- ⑤ 学問の進歩に多大なコウ|献をする

問3 傍線番号③「私の目に応じようとしなかった」とあるが、「私」はこの時の浅田絶子についてどのような判断しているか。

その説明として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

11

- ① 浅田絶子はいつもぼんやりとしているため、「私」が好意をこめて何度も見つめているのに、その視線にまったく気がつかなかったと判断している
- ② 浅田絶子に好意を持った「私」は、見つからないように彼女を見つめていたのだが、彼女はそれに気づいて、「私」と会うのを避けるようになったと判断している
- ③ 浅田絶子に好意を抱きしばしば彼女をこっそりと見つめている「私」の視線に、彼女は気づいていながら、あえて気づかぬふりをしていたと判断している
- ④ 浅田絶子は「私」が好意を持って自分を盗み見ているのに気がついて迷惑に思い、ぼんやりと遠くを見るふりをするようになったと判断している
- ⑤ 浅田絶子は「私」の誘うかのような視線に気づいていたが、公衆の面前でそれに応じることはできず、別の機会を模索しているのだと判断している

問4 傍線番号(4)「この二人の少女の間にあつた秤のようなのが一方に傾いてしまった」とあるが、どういふことか。その説

明として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

12

- ① 「私」は実際には重田さんとも浅田絶子とも特別な関係にあるわけではないのに、重田さんと二人で浅田家を訪れたことで、「私」が重田さんと特別な関係にあるかのような印象を与えてしまったということ
- ② 「私」は浅田絶子に好意を持っていたのに、特別な関係がなかった重田さんと二人で浅田家を訪ねたことで、「私」の気持ちが浅田絶子から重田さんの方に移つたことを自覚したということ
- ③ 「私」は重田さんとも浅田絶子とも何の関係もなかったが、重田さんと二人きりで浅田絶子に会いに来てみると、自分が本心では重田さんに好意を持っていたことがだれの目にも明らかになつたということ
- ④ 浅田絶子も重田さんも「私」にとつてはたまたま列車で遭遇した少女に過ぎなかったが、浅田家に来たことで、「私」が重田さんではなく、浅田絶子に好意を持っているという印象を与えてしまったということ
- ⑤ 浅田絶子と重田さんは友人でありつつ、二人とも「私」に好意を抱くライバル同士であつたのだが、自分と重田さんが一緒に来たことで、二人の友情のバランスが崩れてしまったということ

問5 傍線番号(6)「私は大きな躓きを感じていた」とあるが、この時の「私」の心情の説明として、最も適切なものを、次の①

⑤の中から一つ選びマークしなさい。

13

- ① 計画が始終うまく行かないことで、落ち込んでいる
- ② せっかく立てた予定が狂ってしまい、いらだっている
- ③ ひそかに願っていたことが途中で失敗し、落胆している
- ④ 自分の失態で希望どおりに事が運ばず、焦っている
- ⑤ 重田さんの存在が失敗の原因と分析し、反省している

問6 傍線番号(8)「矛盾」とあるが、ここではどのようなことを意味しているか。その説明として、最も適切なものを、次の①

⑤の中から一つ選びマークしなさい。

14

- ① 失恋という運命の大きな契機に遭遇してもくじけず、少女の前では明るく自然に振る舞おうとしているということ
- ② 少女たちに好印象を持たれるようにできるだけこやかに振る舞って、自分の運命を変えようとしているということ
- ③ 相手が自分に対して冷たい態度を取るようになって、自分の方は見苦しい態度を取るとしているということ
- ④ 少女の気を引くためにやってきた場所であるのに、自分が損ねた少女の気持ちを繕うべく気遣いをしているということ
- ⑤ 自分にとっての一大事に遭遇して落胆・失望しているが、表面的には普段と変わらぬよう社交的に振る舞っていること

問7 傍線番号(12)「非現実の幻の風景のようであった」とあるが、それはなぜか。その理由の説明として、最も適切なものを、

次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

15

- ① 突然の出来事で失恋したものの、新たな恋が始まったことを予感し、これまでとは異なる人生を生きていく幻想にとらわれていたから
- ② 深い考えもなかった行為で、自分の思いがかなわなくなったという現実を受けとめることができず、茫然ぼうぜんとしていたから
- ③ 暑さや不慣れなせいで道に迷い、女性と二人で歩いている緊張も加わって、周囲の光景から今後の成り行きに不安を感じていたから
- ④ 意図せぬなりゆきで重田さんと二人きりになったことが信じられず、今後の展開が気になり、周囲の光景が目に入らなくなっていたから
- ⑤ 浅田絶子に嫌われてしまったが、荷物を持ってくれるなどして自分を支えてくれる重田さんを身近に感じ、安らぎの気持ちを感じたから

問8 傍線番号(16)「下手なことはその意味と関係がない」とあるが、どういうことか。その説明として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

16

- ① 文章はどんなものであっても、表現の上手・下手ではなく、この手紙も重田さんが「私」への好意を告げたものであるというだけで、喜びであるということ
- ② 重田さんの手紙は表現の点では六十点だが、「私」が女に愛されているという事実を教えてくださいました点では、詩や小説よりもすぐれたものだということ
- ③ 詩や小説の場合は表現の上手・下手が重要であるが、重田さんの手紙の場合は表現がどうであれ、「私」への思いを告白しているという内容に意味があるということ
- ④ 重田さんの手紙はつたない表現で「私」への愛情を告白しているが、そのつたなさがかえって人生の真実をあざやかに物語っており、内容面では価値があるということ
- ⑤ 重田さんの文章表現は確かに下手なのだが、「私」への思いが伝わらないほどひどいものではないので、さして問題にするほどのものではないということ

問9

傍線番号(17)「自分が光に包まれているように感じた」とあるが、この時の「私」の心情の説明として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

17

- ① 重田さんには何の好意も持っていなかったが、重田さんからの手紙で自分が女性に愛されていることを知り、文学作品に出てくるような恋愛を経験できるという期待に胸をふくらませている
- ② 意中の人だった重田さんからはじめてもらった恋文で大胆な愛の告白をされて有頂天になり、念願の恋人ができたことで、よい文学作品が書けそうな予感がしている
- ③ 重田さんと知り合い、即座に手紙で告白までされるといふ、あたかも文学作品の主人公のような恋愛ができることになった偶然に感謝する気持ちになっている
- ④ 最初に恋をしていた人とは違うが、重田さんからの愛の告白をきっかけに特殊な関係になり、重田さんに突然文学作品の主人公のような魅力を感じ、あこがれている
- ⑤ 若き詩人である自分は、過去の文学作品にあるような恋愛を実際に体験し、それを作品にする機会を待っていたが、いよいよその時がきたことに胸をふくらませている

問10

本文の特徴の説明として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

18

- ① 主人公にのみ独特な言葉遣いをさせて、彼の気持ちのゆらぎを表現している
- ② 夏特有の風物を数多く描いて、北国の短い夏の出来事であることを印象付けている
- ③ カタカナ語を多く用いて、時代背景に文明開化があることを際立たせている
- ④ 色彩に関する表現を多く用いて、女学生の姿や風景を生き生きと描いている
- ⑤ 女学生たちの言動をあえて活発に描いて、彼女たちの主人公への思いを表している

## 第二問 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(40点)

今日では、とりたてて「夢」など所持していなくとも、事後的に「夢」を所有していたと感じさせ、無限の自己肯定を可能にするきわめて効果的な方法が存在する、と。その錬金術の舞台はテーマパークである。テーマパークとは、「夢」を大量に消費させるための装置なのだ。

それは錬金術と同様、ひとつの詐術の上に成り立っている。手口は簡単だ。わたしたちはしばしば「夢」がかなうと表現するが、それを消費することとすり替える。それだけだ。消費することで、あたかも「夢」がかなったかのような気にさせるのである。だから、夢をみよとセマ<sup>(1)</sup>る言説の跋扈<sup>(2)</sup>する今日とは、反面びつくりするほど容易<sup>(3)</sup>く「夢」をかなえることができる社会でもある。必要なのは、小遣いをたずさえ出かけてゆくことだけだ。行く先はいうまでもない。テーマパークである。

東京ディズニーリゾートは、「夢よ、ひらけ!」とよびかけ、みずからを「あなたの夢をかなえる場所」だと僭称<sup>(4)</sup>する。「夢」を与えるのではない。かなえる。それがみずからの役割だと心得ているのだ。

他方で、そこでかなえられるという「夢」がいったいどんな「夢」かについては、ほとんど問題にされていない。じつさい、それはたいして重要ではないのだ。東京ディズニーリゾートにおいて「かなえ」られる「夢」とは、具体的には『キートンの探偵学入門』や『カイロの紫のバラ』のように、スクリーンの「あちら」側の世界へ入っていつてしまうことである。まるで映画の主要な登場人物になったかのように、映画のなかで起きている出来事に参加することだった。表象された非現実の世界に入り込み、現実世界ではけっして経験することのできないような「冒<sup>(5)</sup>ケン」を経験したと、身体を媒介に実感させてくれるような、参加型のスペクタクルである。

けれども東京ディズニーリゾートを訪れる年間二五〇〇万にのぼるひとつの大半が、ディズニー映画の内部に入り込むことを、あらかじめ本気で欲しているものだろうか。ちなみにこの来場者の内訳をみると、十八歳以上が六十九パーセントを占め、女性の割合は七十四パーセントに達する。分別ある立派な成人が、ディズニー流のおとぎ話の一員になってみたいという切々た

る「夢」をひしと胸に秘め、千万人単位ではるばる浦安の埋立地にまで押し寄せてくるのだとは、さすがに考えにくい。だとすれば、東京ディズニリゾートが「かなえ」てあげましょうと主張している非現実世界の現実化という「夢」は、必ずしも「わたしの夢」として訪問客によって事前に強く想像されていたものではないだろう。にもかかわらず、「あなたの夢をかなえる場所」という東京ディズニリゾートの自己規定にほとんど疑問が差しはさまれることはない。<sup>(6)</sup>あまつさえ訪問客みずからが帰りに際に「夢をありがとう」などという言葉さえ口走ったりしてしまふほどだ。

東京ディズニリゾートが訪問客にもたらすのは、特定の内容をもつ「夢」の具現という 7 的なものではない。否応なく投げ込まれ、そこから離脱することが許されない日常生活を、一時とはいえ忘れさせてくれる「日常からの解放」というやつだ。そこでは、おいそれとは消すことのできないほど染みついた身構えが解きほぐされ、すべてが肯定されてすっかりくつろいだ気持ちになり、世界のすべてが「わたし」のために微笑んでくれているだろう。

こうした感覚とは、現実から切り離されて浮游する、文字どおりに足のつかない夢見心地だ。夢見心地のなかにタダヨウからこそ、ひとたび東京ディズニリゾートの訪問客となれば、日頃は安売りの商品を探しまわって緊縮している者でさえ、ふだんでは考えられない規模の散財への衝動に躊躇なく身をまかせることになる。アトラクションに乗りまくり、レストランで高価な食事をとり、ディズニグッズを山ほど買い込み、意気揚々と引きあげてゆく。気まぐれな訪問客を見事な手際で武装解除してみせることこそが東京ディズニリゾートの真骨頂であり、それが通常ではとても期待できないような高い客単価の達成へとつながっている。

たしかにそれは、<sup>(10)</sup>じつによくできた商売である。誰にでも真似のできるものではない。ひとはそう簡単に夢見心地になどなつてはくれないから、そのためには相当に手の込んだ、そして徹底してわかりやすい、虚構を貫く必要がある。ディズニランドの<sup>(11)</sup>ばあい、その枠組みとなるのが「映画」なのであり、これが虚構を実世界に具現するというコンセプトを担っている。

通常の映画なら、その作品世界への参加は観客として鑑賞するという方法以外にない。それでは、スクリーンをはさんで「あちら」と「こちら」が対峙するという世界の構図は変わらず、観客がどれだけ作品の世界に魅了されたとしても、その身体は実

生活のなかで客席のシートの上に（あるいは自宅のテレビの前のソファの上に）とどまつたままだ。ディズニールランドにおいては、客は出来事そのものに参加する。客が参加しなければ、テーマパークのアトラクションは成り立たない。それは通常の映画ではけっして達成することのできない参加形態だ。ディズニールランドの要諦は、このように、それが表象としての映画ではなく、実体化した表象、具現化した仮象であることにある。なぜなら、ひとを徹底して巻き込むためのもつとも効果的な方法は、かれらを外部に留まらせるのではなく、内部に引きずり込むことだからである。

客を内部に巻き込むためには、虚構の徹底さに要求される水準はカク段にあがる。<sup>(12)</sup> その代わりに、巻き込まれた側はその虚構世界の当事者となる。当事者とはその世界の一部分になる者のことだ。内部に坐する者となつたかれらは、その虚構世界を俯瞰して見わたす視線をもちえず、ただつぎつぎあらわれる局面とのやりとりをくりかえすうちに、より深く状況に巻き込まれてゆく。そのことはしばしば、かれらの属する世界そのものについて

14

的な視線を把持しにくくするだろう。

〈アトラクション〉はすべてからこの枠組みを採用しているが、それがもつとも純粹かつ徹底した形で実装されているのが、テーマパーク、とりわけディズニールランドなのだといえる。おとぎ話そのままのお城。映画のなかから抜け出てきたキャラクター。スリリングなアトラクション。完璧に飼い慣らされた自然。それらはすべて、設定された目的にしたがって指定されたところのふるまいをみせるセットであり、機械である。それがわたしたちに提供するものは、いつでも何度でも確実に反復されること<sup>(15)</sup> が保証されている経験という。であり、ゆえに訪問客たちはシステムの一部品として組み込まれることになる。ちょうど宇宙ロケットが爆発的な力を発<sup>(16)</sup>キする推進装置によって地球の重力圏からの離脱を可能にするように、訪問客はこの強力なシステムによって、かれらの日常生活圏から解き放たれるような感覚を得る。

（長谷川 一 『アトラクションの日常 踊る機械と身体』による）

問1 傍線番号(1)・(5)・(8)・(12)・(16)と同じ漢字を使う語を、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選びマークしなさい。

19  
～  
23

(1)

セマ|る

- ① ユダヤ人ハク|害の歴史
- ② 船が港に停|ハク|する
- ③ 歴史の空ハク|をうめる
- ④ ハク|手が鳴りやまない
- ⑤ ハク|識をもって知られる

(5)

冒|ケン

- ① 頑|ケン|な体を作る
- ② ケン|術を教える
- ③ ケン|悪な雰囲気
- ④ 犯人をケン|挙する
- ⑤ 化学の実ケン|をする

(8)

タダ|ヨウ

- ① ヒ|ヨウ|準的な問題だ
- ② 衣類をヒ|ヨウ|白する
- ③ 意見をヒ|ヨウ|明する
- ④ 即日開ヒ|ヨウ|する
- ⑤ 偉人のヒ|ヨウ|伝を書く

(12)

カ|ク|段

- ① 裏でカ|ク|策する
- ② 外界とカ|ク|絶する
- ③ カ|ク|証をつかむ
- ④ 領土をカ|ク|張する
- ⑤ 難問とカ|ク|闘する

(16)

発|キ

- ① 長|キ|の休暇を取る
- ② 楽団を指|キ|する
- ③ パソコンの|キ|能
- ④ 午前六時に|キ|床する
- ⑤ イベントを|キ|画する

問2 傍線番号(2)・(4)・(6)・(9)・(13)の本文における意味として、最も適切なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ

つ選びマークしなさい。 24 28

(2) 跋扈する

- ① 手段を選ばず、敵を叩きのめす
- ② 小さなことまで口出しする
- ③ すばやい動きで人の目を欺く
- ④ 言葉巧みに人を欺く
- ⑤ 思いのままに勢力を振るう

(4) 僭称する

- ① 誰にも知られないようにひそかに生きる
- ② 自分の実力や身分を超えた称号を名乗る
- ③ 自分自身の役割や目的を高らかに宣言する
- ④ 自分の行動や役割をへりくだって表現する
- ⑤ 他者の目を通して自己のあり方を自覚する

(6) あまつさえ

- ① それでも
- ② かならず
- ③ ついでに
- ④ おまけに
- ⑤ ややもすれば

(9) 真骨頂

- ① 表面的な名目上の役割
- ② 予想外の、卓越した能力
- ③ 誰にも知られていない実態
- ④ そのものの本領、本来の姿
- ⑤ 他とかけ離れた独自の個性

(13) 俯瞰

28

- ① 高いところから見下ろすこと
- ② 体ごとぶつかっていくこと
- ③ 客観的に分析してみることに
- ④ はるか遠くから眺めること
- ⑤ 自信や余裕をもって対すること

### 問3

傍線番号(3)「あなたの夢をかなえる」とあるが、それは筆者の考えによればどのようにすることか。その説明として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

29

- ① 夢を消費とすり替えることで、スクリーンのあちら側の世界へ入りたいと強く望んでやってくる人々に、それが実現できたと、身体を通じて実感させること
- ② そのときだけでも日常から解放され、世界のすべてが自分に微笑んでくれているという体験をさせることで、否応なく非現実の世界へ投げ込んでいくこと
- ③ たとえ一時でも日常生活を忘れさせ、表象の世界で映画のなかの出来事に参加しているというような実感を得させることで、夢が実現したと感じさせること
- ④ 日常から解放し、非現実の世界に参加させることで、すべてが肯定されているというような気分にさせ、日常のなかにしつかりとその実感を定着させていくこと
- ⑤ 現実世界ではけっして経験することができないことを経験させ、個々人のもつ具体的な夢を現実のものとして感じられるよう積極的に働きかけること

問4 空欄番号

7

14

に入る語句として、最も適切なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選

びマークしなさい。

30

31

30 7

- ⑤ 能動
- ④ 一義
- ③ 対照
- ② 抽象
- ① 主観

31 14

- ⑤ 实用
- ④ 組織
- ③ 感情
- ② 肯定
- ① 批評

問5 傍線番号(10)「じつによくできた商売」とあるが、どのようなことを指してそういつているのか。その説明として、最も適

切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

32

- ① 客に夢を与え、日頃の生活を忘れて買い物や食事を楽しみ、十分満足させることで、客が礼まで言うようになること
- ② 客を夢見心地にさせることによって、浪費を避けようとする客の警戒心をうまく解除し、多くの利益を得ていること
- ③ 誰も真似できない独自の虚構によって客を満足させ、客にその価値を十分納得させた上で躊躇なく散財させていること
- ④ 映画によって虚構を具現化し気まぐれな客の危険な行動を防ぐことで、安心して楽しみ散財するようにさせていること
- ⑤ 客を夢見心地にするコンセプトを見出し、誰でも多くの客から簡単に利益を得られる方法を確立させていること

問6 傍線番号(11)「通常の映画」とあるが、テーマパークは映画とどのような点が違っているのか。その説明として、最も適切

なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

33

- ① 当事者として虚構の内部に存在することで、虚構の世界を現実と感じ、現実世界を客観的に観察するようになる点
- ② 当事者として出来事に参加するという形態をとるが、それが徹底した虚構であるため、現実との距離を感じてしまう点
- ③ 様々な局面で状況と積極的にかわることで経験を深め、現実には縛られない自由で主体的な生き方が可能になる点
- ④ 実体化した表象を見せられることで、虚構に巻き込まれてしまい、自分の属している世界を冷静に見る目を失う点
- ⑤ 世界を内側から見ることで、鑑賞者ではなく、当事者としての自覚や責任をもって虚構に対するようになる点

問7 空欄番号

15

に入る語として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

34

- ① 予定調和
- ② 安全神話
- ③ 定点観測
- ④ 永久運動
- ⑤ 常套手段じょうたうしゅん

問8

本文の内容と合致するものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

35

- ① デイズニーランドが夢をかなえる場所だというのは虚構であり、分別ある大人はそのことに対して疑問を呈している
- ② 金さえあればテーマパークの中で簡単に夢がかなうようになった結果、夢をもつことの必要性は叫ばれなくなった
- ③ 多くの大人がデイズニーランドにひきつけられるのは、一方でテーマパークの虚構を見抜く目を備えているからである
- ④ 人々は、デイズニーランドの強力なシステムによって、その一部に組み込まれ、虚構の世界を体験するようになった
- ⑤ 多くの人は夢を抱いて生きているが、日常の中では実現することができず、虚構の中でその夢をかなえようとしている

第三問 次の文章は『夜寝覚物語』の一節で、出産した北の方が夫である関白（殿）と過ごしているところに中宮からお祝いが届

いた場面である。これを読んで、後の問いに答えなさい。（20点）

三日、五日、七日、御産養、われもわれもといそぎ給ふ。<sup>(1)</sup>中宮より、御産衣奉り給ふ。銀の五葉の枝に付けさせ給ひて、御使ひは宮の大夫なり。

巢ごもりにいぶせく聞きし鶴の子のよろづ世かねてあらはれにける

とのたまはせたる、をかしくあはれに思ひ、子持ちの名残苦しく弱げにて臥し給へるに、見せ奉り給ひて、「心ひとつに思ひわびては、申し合はせて、胸の苦しさを晴るけし、思し召し合はすらん」とのたまひ出でたるを、「あな心憂。はづかしくもあるかな。いかに聞こえ給ひけん」とのたまふも、「こは、今日かくて見奉らんと思ひしや」と、夢のやうにぞおぼえ給ふ。<sup>(5)</sup>「この御返り、われ申さんはめづらしげなし。聞こえ給へ」とあれば、「筆取るべうもあらず。苦しき」とのたまへど、強ひて聞こえ給ふに、辞みかね給ひて、

今日こそはあらはれざりし鶴の子のいぶせからずは思ひなりぬれ

まことに、何の御心もなく、殿の御膝に助けられて筆にまかせて書き給へるさまの、引き繕はねど、墨つき、文字のほひ、めづらかに、かく弱くくづほれ給へる人のとも見えぬ、めでたし。御使ひに、女房、杯取りてもてはやして、被け物などせさせ給ふ。例の、上達部殿上人参り集まりて、御遊び、われもわれもと手を尽くして思したるに、殿、はなやかに装束きて出で給ひて、例ならず琵琶取り寄せて、「誰々も、手隠し給はん人は恨めし」とのたまふけしき、帝の後腹の御娘を得給ひてもこの人の御心にはさのみうれしげにも思すまじきに、「ただ北の方のありがたき御心ざしなめり」と言ひ合へり。<sup>(10)</sup>

（『夜寝覚物語』による）

（注）子持ちの名残——出産後の疲れ。

問 1 傍線番号(1)・(7)の口語訳として、最も適切なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選びマークしなさい。

36  
・  
37

(1) いそぎ給ふ

- ① 忙しくしている
- ② 急いで参上する
- ③ 急がせ申し上げる
- ④ ご準備申し上げる
- ⑤ ご用意なさる

36

(7) 文字のにほひ

- ① 手紙からただよう芳香
- ② 紙にふさわしい色つや
- ③ 文字の流れにある勢い
- ④ 書かれた文字の美しさ
- ⑤ 文字から匂う墨の香り

37

問2

傍線番号(2)「あな心憂。はづかしくもあるかな」とあるが、誰が「はづかしく」思ったのか。最も適切なものを、次の①

⑤の中から一つ選びマークしなさい。

38

- ① 中宮
- ② 関白(殿)
- ③ 北の方
- ④ 宮の大夫
- ⑤ 帝

問3

傍線番号(3)・(6)の敬語「聞こえ」は誰の誰に対する敬意を表しているか。最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

39

- ① (3)は北の方の中宮に対する、(6)は作者の北の方に対する敬意
- ② (3)は北の方の中宮に対する、(6)は作者の関白に対する敬意
- ③ (3)は北の方の関白に対する、(6)は中宮の関白に対する敬意
- ④ (3)は中宮の関白に対する、(6)は作者の北の方に対する敬意
- ⑤ (3)は中宮の関白に対する、(6)は中宮の北の方に対する敬意

問4 傍線番号(4)「夢のやうにぞおぼえ給ふ」とあるが、関白がこのように思った理由として、最も適切なものを、次の①～⑤

の中から一つ選びマークしなさい。

40

- ① 北の方が難産のすえに、無事に元気な子供を産んだから
- ② 出世したために、子供の誕生を中宮までが祝ってくれたから
- ③ 北の方の出産の疲れがひどく、すっかり衰弱してしまったから
- ④ 子供も生まれて、北の方と幸せに過ごせるようになったから
- ⑤ 子供が生まれても、北の方がいまだによそよそしい態度をとるから

問5 傍線番号(5)「この御返り、われ申さんはめづらしげなし。聞こえ給へ」の口語訳として、最も適切なものを、次の①～⑤

の中から一つ選びマークしなさい。

41

- ① このお返事は、私が申し上げるのでは珍しくない。どのようなものかお聞きください
- ② このお返事は、あなたが申し上げるのではつまらない。私に命じてください
- ③ このお返しは、あなたが選ぶ物が無難だ。よい物を差し上げてください
- ④ このお返しは、私が差し上げる物ではつまらない。あなたが選ぶください
- ⑤ このお返事は、私が申し上げるのではつまらない。あなたがお書きなさい

問6 傍線番号(8)「誰々も、手隠し給はん人は恨めし」にこめられた閑白の気持ちを説明したものととして、最も適切なものを、

次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

42

- ① 客人たちが閑白の差し出す琵琶を受け取らないのを恨む気持ち
- ② 客人たちには遠慮することなく演奏を楽しんでほしいという気持ち
- ③ 祝いの席を盛り上げるために北の方に琵琶を弾いてほしいという気持ち
- ④ 祝いの席にふさわしい和歌を客人たちに詠んでほしいという気持ち
- ⑤ 中宮と北の方の見事な筆跡を見せられないのをつまらなく思う気持ち

問7 傍線番号(9)・(10)の文法的説明として、最も適切なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選びマークしなさい。

い。  
43  
44

- (9) うれしげにも
- ① 形容詞の終止形＋副詞＋助詞
  - ② 形容詞の終止形＋形容動詞の連用形＋助詞
  - ③ 名詞＋副詞＋助詞
  - ④ 形容動詞の連用形＋助動詞の連用形＋助詞
  - ⑤ 形容動詞の連用形＋助詞

- (10) なめり
- ① 断定の助動詞の撥音便<sup>は</sup>＋推量の助動詞の終止形
  - ② 推定の助動詞の撥音便＋推量の助動詞の終止形
  - ③ 断定の助動詞の促音便＋伝聞の助動詞の連用形
  - ④ 推定の助動詞の促音便＋完了の助動詞の連用形
  - ⑤ 下二段動詞の已然形＋完了の助動詞の終止形

問8 本文の内容に合致するものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

45

- ① 中宮からの和歌は北の方には理解できなかったため、関白が説明した
- ② 北の方が中宮への返事を書けそうになかったため、関白が代作した
- ③ 関白に抱かれた赤ん坊のそばで、北の方は中宮に手紙を書いた
- ④ 関白は出産祝いに訪れた人々と、管弦の遊びを楽しんだ
- ⑤ 関白は帝の娘を妻にしていたので、北の方への愛は浅かった

問9 本文の出典である『夜寝覚物語』は平安時代後期に成立した『夜の寝覚』の改作本である。『夜の寝覚』と同時期に成立した作品を、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

46

- ① 伊勢物語
- ② 平家物語
- ③ 堤中納言物語
- ④ 保元物語
- ⑤ 雨月物語